

クロゴケ科

クロゴケ

Andreaea rupestris Hedw. var. *fauriei* (Besch.) Takaki

兵庫県ランク… C

環境省ランク… —

■ 県内分布

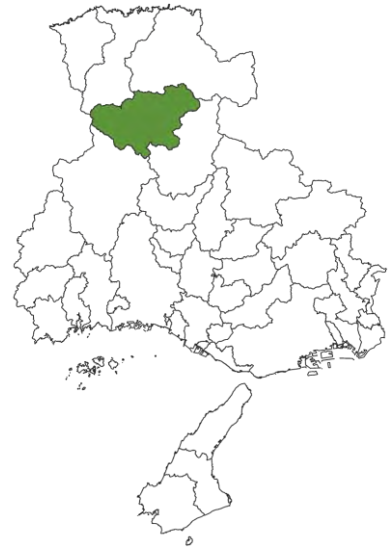
養父市

■ 国内分布

北海道、本州、九州

■ 選定理由

人為性	特殊性	学術性
生育環境破壊	特殊生育環境	○ 特殊な分布
観賞用等採取	特異な生態	分布の限界
		希少



■ 特記事項

山岳地であり、また登山道からは離れているので、絶滅の危険性は少ない。

■ 保護上の留意点

—

■ 種の概要

植物体は小さくて、和名のように黒赤色。茎は立ち、ふつう高さ1-2cmでわずかに分枝する。葉は密につき、卵状長楕円形で凹み、長さ0.8mmほどで鈍頭、中央部がややくびれる。中肋はない。葉身細胞は円状六角形、長さ約10μm、背面に大きな乳頭状の突起がある。雌雄異株(まれに同株)。雌苞葉は普通葉よりもずっと大きく、鞘状になる。蒴は卵状楕円形で、わずかに苞葉の上に出、成熟すると縦に4裂するが、上端が離れず、あんどん状になる。胞子は直径20-30μm。高地の日当りのよい岩上、まれに樹幹に生育する。